

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672600117		
法人名	社会福祉法人 空心福祉会		
事業所名	グループホームえるむ(バジル)		
所在地	京都府福知山市旭が丘92-2		
自己評価作成日	平成28年5月14日	評価結果市町村受理日	平成28年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2672600117-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年6月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・京都府北部で初めて認可を受け開設したグループホームとして、手探りの中で、入居者の感情豊かな、いきいきとした暮らしの支援を目指し取り組んできました。「できることは可能な限り自分で、できないことは協力して、できないことは代行して」を基本に、入居者の個々の力、協力し合う力、必要な支援の見極めをSTAFF間でしっかりと行うように努めています。
 ・毎日の買物、散歩、季節に応じた外出等ほぼ毎日外出をし、ホームの中だけでの生活ではなく、地域に出かけ、ともに季節を感じ、気持ちを共有できるように取り組んでいます。毎年日帰り旅行を入居者や運営推進会議から意見を取り入れ企画し、思い出に残る旅行や、個別の思いを実現するための外出等の機会を多くもつようにしています。生活に根ざした楽しみ、昔馴染みの仕事を多く持てるよう、季節感のある保存食作りや季節の菓子作り等に力を入れています。
 ・ISO9001:2015を取得しサービスの品質管理を徹底しています。また、人材育成委員会を中心に、様々な研修を行い、人材育成、サービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は家族と共に利用者を支えることを基本としており、意見交換し情報が共有できるように介護計画の見直し時のサービス担当者会議には家族の参加を得ています。スタッフは編み物や裁縫、調理の手伝いなどの他、館内にある図書コーナーに本を借りに行ったり、ドライクリーニングコーナーに仕上がった洋服を取りに行くなど、利用者のできることや個々に応じた生活リズムを大切に自立支援や個別ケアに向けて取り組んでいます。また、地域交流にも力を注ぎ広報誌の配布や美化作業へのスタッフ参加の他、利用者と一緒に中学校の授業参観や夏祭りに参加したり、小・中・高生の体験学習の受け入れや児童センターの子ども達の歌や踊りの披露、合唱のボランティアの来訪など多くの交流の機会を持ち地域との良好な関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありがたいと溢れる、地域で創めるこれからの暮らし」を施設理念とし、法人の福祉サービス方針、ホームの福祉サービス目標の中でも、地域社会の一員としての生活を支援していくことを掲げている。入居後も、地域の中へ積極的に出掛け、できる限りこれまでのその人らしい生活を支える支援に取り組んでいる。	法人理念や施設理念は玄関に掲示し毎朝礼時に唱和をすることでスタッフに意識づけを行っています。理念を基に行うスタッフアンケートを集約し事業所の目標を決め、半期毎に会議等で振り返り、年度末にはスタッフ間で話し合い次年度の目標に繋げています。新任入職時のオリエンテーションでは施設長より施設理念や福祉サービス等について説明を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは十分とは言えないが、近隣の児童センターとの交流やSTAFFのボランティア活動として、地域の防犯パトロールへの参加、美化作業を行い、地域貢献を行っている。	近隣の児童センターの子ども達の来訪があり歌や踊りを披露してくれたり、地域の夏祭りや中学校の授業参観等に参加したり、事業所で行う敬祝祭にはチケットを配布し子ども達に参加してもらうなど地域との関わりが広がっています。スタッフは月2回地域の美化作業に参加したり、広報誌の配布やAEDの設置について発信するなど地域からの理解を得たり、貢献できるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、高齢者の暮らしの実態、施設に求める事など、様々な意見を聞き、話合うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し、福祉サービス目標の進捗状況(取り組み内容、行事、事故、外出、研修等)、現況を報告し、意見交換の機会を持っている。また、時季に応じた勉強会を実施し、資料を持ち帰って頂いている。	会議は利用者や家族、市職員、自治会長等の参加を得て事故や苦情、行事等について報告をし意見交換等を行っています。ホールに掲載されている写真に日付を入れてほしいとの要望に対し日付と場所がわかるように記載するなど速やかに対応しています。また、外出時の情報をもらったり、テーマを決め感染症や認知症予防などについて研修会を行うなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加者に市担当者、地域包括支援センターから1名ずつ参加して頂き、事業所の取り組み状況を報告し、様々な意見を聞くことができている。また、介護保険改正の際には、高齢者福祉課 課長より勉強会を実施して頂くなど、関係作りを行うことができている。	運営推進会議に市職員の参加がありホームへの理解を得ています。制度上わからないことや相談事があった場合は直接出向いたり、電話等でアドバイスを受けるなど良好な関係を築いており研修等の案内が届いた場合は可能な限り参加するようにしています。また、介護相談員の受け入れも行っていきます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じ、身体拘束について理解を深めている。身体拘束0を継続して取り組むことができている。	ホーム内で年1回資料を基に研修を行い、言葉による制止やどのような行為が身体拘束に繋がるのかなどを学び意識を高めています。玄関は日中開錠しており、エレベーターはテンキーとなっていますが、外に出たい要望があればスタッフが付き添って出かけたり、掃き出し窓からベランダに出たり、横並びのユニット間を歩き来しながら気分転換を図れるように配慮しています。	

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や部所の研修を通し、人権や虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止の徹底に努めている。内出血等についても原因を究明し、入居者の言動等、小さな情報もSTAFF間で共有したり、言葉遣い(言い回しや言動等も含め)の見直しを職員間で取り組む等、常に虐待や人権侵害がないように日頃より注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修において学ぶ機会を得ている。そこで資料をファイルに綴り、閲覧できるようにしている。法人人材育成委員会主催の新入STAFF研修においても、権利擁護をテーマに取り上げ、教育を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明はもちろん、入居者、家族等の入居への思い、不安、希望等、十分に話を聞き対応するようにしている。入居後も、利用料金等への詳細の問い合わせ等にも適切に対応して。退居時も入居時と同じく、十分に話し合いをもち、不安なく次の生活に移ることができるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族よりSTAFFへ直接意見を言って頂けるような関係作り、介護相談員の受け入れ、外部機関の説明等行っている。また、入居者家族へ満足度調査を実施し、頂いた意見については家族への返答を行っている。	年1回満足度調査を実施し結果については家族に報告し、ホームページ上でも公表しています。また、毎月家族にご意見用紙を送付し意見や要望を記入してもらい、意見箱に入れてもらったり、面会時などに聞くようにしています。床の汚れについての指摘を受け、掃除を強化したり、スタッフの名前がわからないという意見についてはスタッフの写真と名前を掲示する予定にしており、得られた意見については速やかに検討し改善したり、サービス等に反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、代表者会議、STAFF会議を行っている。その中で、STAFFからの意見や提案を検討し、実施できるようにしている。また、問題点や伝達すべきことも話し合っている。	ミーティングやユニット会議、グループホーム会議等で意見や提案を聞いています。出された意見はスタッフ間で検討し手順書の改定やソファなどの物品購入等に繋げています。内容によっては代表者会議に挙げることもあります。管理者はスタッフの様子を見ながら声をかけたり、年1回スタッフ自身の望む姿について話しを聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	STAFFが向上心を持って働くことができるよう、キャリアパスやSDSシステム等を導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入STAFF研修、OJT、法人人材育成委員会主催の全体研修、部所内における研修、法人内での研修発表の機会、外部研修への派遣を行い、人材育成に力を入れている。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府内のグループホームで組織する連絡会主催の勉強会や交換研修にSTAFFを派遣している。他のホームからの研修、見学も受け入れ、他のホームで行われている支援等に触れる機会を持てるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前調査、入居事前面接、契約時等から、本人のニーズ、不安等を聞き取れるよう、関係を築くことに努めている。入居当初も不安や悩みを聞き、特にケース担当を中心として信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居事前調査、入居事前面接、契約時等から、家族の不安、利用に至るまでの経過、希望等を聞き取れるよう関係を築くことに努めている。場合によっては、入居までも家族の不安や相談に乗り、こまめに電話などで連絡を取り合うなど、家族の心身状況等への配慮も心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設への入居だけに拘らず、現在の生活、今必要としていること、本人、家族の思いに適したサービス等を含め、可能性を広げられるよう、随時、傾聴、助言をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受け、施設で穏やかにのんびりと過ごして頂くというのではなく、他の入居者やSTAFFと喜怒哀楽いっぱい力を発揮し、支え合える暮らしを目指している。保存食作りなど、馴染みのある作業を通し、STAFFが教わる機会も多く持っている。そういったことについて日頃からSTAFF間で話をするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに心を傾けながら、家族もサービス提供者の一員として共に支えることができるよう、常に情報を共有できるよう努めている。施設の広報誌等を通じ、生き生きとした暮らしの様子を伝え感じて頂くことで、家族も一緒に支援して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている人、もの、場所等の把握に努め、可能な限りその人らしく暮らし続けられるよう支援に努めている。馴染みの習慣の継続、自宅への外泊の支援等も実施している。	親戚や友人の面会があり居室やリビングなどに案内し、お茶や椅子などの用意をしたり、時にはスタッフが付き添い会話がスムーズにいくように支援するなど、ゆっくりしてもらえるよう配慮しています。また、一緒に食事をすることもあります。鉄道に勤めていた利用者やSL列車を見に行ったり、出かけたついでに馴染みの神社に立ち寄ったり、家族に伝え自宅に外泊するなど希望があれば支援に繋げるようにしています。	

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の暮らしの中で、STAFFとの関係だけでなく、入居者同士の関係を理解し、共同生活を支援できるように努めている。入居者に声を掛けてもらう、一緒に何か作業をして頂く等を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの生活が困難となった入居者が契約終了となり、併設の特養入居となっても、訪問しあったり、行事等では特養との交流もあり、関係性を築くことができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに寄り添い、困難な場合でもその方にとってどうか、どうされたいと思われるだろうかと考え、入居者本意に対応できるようユニット毎に検討している。日頃からの思いの傾聴に努めている。	入居前の面談で本人や家族から身体状況や生活歴、趣味、意向等を聞き思いの把握に繋げています。入居後は日々の会話や表情等から気づいたこと、思いや希望を聞きだし、知り得た情報はユニットミーティングで話し合い利用者の思いに沿った支援に繋がるよう検討しスタッフ間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前面談等だけでなく、入居後も本人、家族から聴き取り、また、「私の姿と気持ちシート」を作成する等、日々の中での把握、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前情報だけでなく、日々の中で理解し、見極めるように努めている。日々の様子などは記録にも残していくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見を聞き、ケース担当、ケアマネジャー、他STAFFの意見等を踏まえ検討し、介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を基に介護計画を作成しています。3~4か月でモニタリング、評価を行い意見をまとめ、利用者や家族の参加を得てサービス担当者会議を開き見直しを行っています。家族が参加できない場合は事前に意向を聞き反映させています。アセスメント表は状況に変化がある度にパソコン上で更新を行い、常に最新情報をスタッフ間で共有できるよう工夫をしています。介護記録は計画の実施状況がわかりやすいよう計画に沿って記載をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、介護計画のモニタリングを個別の「生活支援記録」に記入し、情報を共有し日々のケアにいかせるようにしている。家族とのやりとりについては、相談記録に記入し残している。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、要望に応じ柔軟に対応するように努めている。面会時間、外出、外泊等の支援、馴染みの理美容の利用等を継続して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	意向や必要性に応じ、地域資源の活用をしている。サロンなども活用し入居者が利用できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時または必要時、本人及び家族の希望医療機関を利用できるように支援している。必要であれば施設から連絡し、Drに相談や指示を仰げるように連携が取れている。	今までのかかりつけ医を継続してもらうよう伝え、かかりつけ医のない方は協力医にしている方もあります。かかりつけ医や専門医への受診は家族が同行し、緊急時や状況説明が必要な場合はスタッフも同行しています。受診結果については書面や口頭で報告を受けています。協力医は併設施設への往診もあり必要に応じて診てもらうこともあります。また、歯科は必要に応じて往診に来てもらうこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一建物内に特養があり、NSと相談をしながら日常の健康管理を行い、適切に医療を受けられるよう連携しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	Dr、NSからの情報、地域相談室等の職員と連絡を取り、早期退院に向け連携を図るように努めている。また、入院中にお見舞いへ行き、担当者より状態確認も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、早い段階から意向、希望、施設としての対応、医師の判断等確認し、本人、家族と相談していくことを心掛けている。施設として対応ができる可能性、限界についてはしっかりと見極め、支援に向けて取り組んでいる。可能な限り、また、本人、家族の意向に添えるよう対応している。	入居時に法人全体で終末期の支援を行っていきたいという意向を説明し、家族の意向も聞き、利用者の状況に応じてホームで対応できない場合もありますが、できる限りホームで暮らせるよう支援しています。過去には最期までホームで支援した方もあり、スタッフは毎年終末期ケアの研修を受けながら、入浴が困難になった場合でも併設施設の特殊浴槽を利用するなどしてホームで可能な限り支援ができるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当の訓練は行っていないが、「緊急時対応マニュアル」を作成し、緊急時の対応に備えている。また、普通救命講習に全員修了できるよう派遣している。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練を行い、災害時に対応できるよう取り組んでいる。また、水、食料等の非常食をホーム内に備蓄している。消防署との連携に努めている。	年2回併設の施設と合同で昼夜想定で避難訓練を行い、内1回は消防署の立ち合いの下、通報や初期消火、避難誘導の訓練を利用者と一緒に行っています。火災以外にも風水害や地震による災害も想定しながら行っています。居室入口には利用者の避難済みを確認するためのスライド式の札を設置し訓練時にも使用しています。地域の自主防災組織にスタッフが加わり地域の訓練にも参加しています。また、事業所が福祉避難所として福知山市と協定を結ぶ予定となっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者とSTAFFの関係をしっかりと築き、一人ひとりに応じた丁寧な対応や言葉掛けを心掛け、記録類の取り扱いにも注意を払っている。言葉掛け、態度等不適切なものがあれば、STAFF間で注意し合える雰囲気となっている。	スタッフは入職時や、年1回の研修以外にもマナー規範について学び理解を深めています。利用者との適切な関わり方や訪室時のマナーなど施設マニフェストにも謳い、丁寧語を意識しながらプロとしての節度を保ち利用者に接するよう努めています。呼称については入居時に家族から同意書をもらい希望の呼称で呼ぶようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の理解力を把握し、個々に応じて声掛けや希望の聴き取りを日頃から行っている。場面に応じた自己決定や、できるだけ納得ができるよう支援し、自分らしく暮らせるよう努めている。1回/月の自治会を開催している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務、STAFF都合優先ではなく、入居者のその日、その時の思いを大切にしながら暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみ、外出、行事等の際のおしゃれは、その人らしさ、清潔感を大切に支援している。また、理美容は本人、家族の希望を聴き取り、希望の店を利用できるように対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同一建物内にある特養の管理栄養士が作成した献立を基にしなが、好みや季節に合った食材に配慮し柔軟に対応している。調理等食事の準備、片付けを共に行っている。	法人の献立を基に旬の物や利用者の好み等を考慮しながらアレンジしたり、選択献立も取り入れています。食材は地元産を使用するように努め、利用者と一緒に買い物に出かけています。調理から後片付けまでできることに携わってもらい担当スタッフと同じテーブルを囲み一緒に食事を摂っています。手作り弁当持参で外出したり、誕生日には本人の希望を聞き外食に出かけるなど食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一建物内にある特養の管理栄養士が作成した献立を基にし、量、栄養のバランスを確保している。一人ひとりの摂取状態、好みに応じ介助等行っている。補食としてのおやつ等も個別に対応している。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の義歯洗浄剤の使用、食後の歯磨き等、入居者個々の状態や力に応じ支援をしている。口腔衛生についての研修を受けるなど知識の習得、資料の共有などしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターン、使用しやすいトイレ、適した排泄用品、介助の仕方等情報を共有、検討し、個別に応じた支援をしている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、排泄記録からパターンを把握しサインを見逃さないように個々に合わせて声をかけたり、トイレへの案内をしています。夜間のみ紙パンツを使用したいなど利用者の意向も取り入れながら失敗なく快適に過ごせるよう支援すると共に、排泄用品や排泄方法等についても話し合い自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、影響について理解し、水分・食事摂取、運動等を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミング等は可能な限り一人ひとりに応じて対応できるよう努めているが、体制上入浴の時間は限られてしまっている。一人ひとりゆったりと入浴を楽しんで頂けるよう個別の状態に応じた介助、好みの湯温調節等を行っている。	入浴は週に2回以上、午前中から声をかけゆっくり入ってもらえるよう支援し、希望により多めに入る方もいます。柚子湯や時には入浴剤を使用したり、脱衣所や浴室の温度差にも配慮し、ゆっくりと会話を楽しみながら入ってもらっています。入浴を拒む方は家族に協力してもらい入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や就寝時間、就寝前の習慣等、一人ひとりの生活や状況に応じ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病、処方薬、注意点について理解し、入居者の力に応じ服薬を支援している。随時処方薬については特に服薬中の変化に注意し、必要に応じDr. 家族に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、生活に根ざした役割を持って頂けるような支援(家事作業・手芸等)、趣味を楽しめる環境作り、外出等の支援を行っている。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じ、気分転換を図ることができるよう散歩、毎日の買物、季節に応じた外出(花見、ホタル狩り、月見、初詣等)等、希望やその日の天候に応じ支援している。	日々の散歩や買い物以外にも初詣や桜の花見など季節毎の外出や海遊館、王子動物園、ミシガン乗船など遠い所への日帰り旅行にも両ユニットで協力しながら出かけています。家族にも案内し参加を得ることもあります。絵画を見に行ったり、希望により地域で行われる琴や三味線の演奏会に出かけるなど個別外出にも取り組み、利用者の思いに添いながら偏りのないよう支援しています。また、蛍見物など夜間外出にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、希望や能力に応じて持って頂けるよう支援することを説明し、本人、家族と相談しお金を管理されるかどうか確認し同意を得ている。持たれない場合も、個別の買物は本人に可能な限り行って頂き、支払いをしていけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、電話や手紙を利用して頂いたり、働きかける等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を大切に、安心して快適に過ごしたり使用できるようにしている。季節の花を飾ったり、時には入居者や家族が作られたものを飾る等工夫している。	フロアやリビングに利用者の作品や雛飾り、七夕、クリスマス等季節を感じる事ができる飾りつけをしたり、行事の写真などを掲示しています。随所にソファやベンチを置き、日向ぼっこや一人でゆっくりと寛いで過ごせるような工夫をしたり、横並びのユニット間を自由に行き来できるようにし、利用者の居場所づくりに配慮しています。また、快適に過ごせるよう換気や掃除を利用者と一緒に毎日行い清潔感のある共有空間作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の状態、関係等配慮しながら、常にホーム内の見直しを行いながら、入居者が居心地よく居られるよう配慮している。共用空間の中にいくつか居場所を作り、1カ所に集まらなくても過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら居室の環境を作っている。使い慣れた馴染みの物、本人の作品、家族の写真等を持ってきて頂き、居心地が良いように工夫している。	居室には洗面台が設置されており、入居前に使っていた机や椅子、タンス、テレビ、寝具等持ち込んでもらい、家族と相談したり、自宅を参考にしながら配置しています。編み物や裁縫道具、習字道具等の趣味の物や家族の写真、縫いぐるみ、ラジカセなども持ち込みその人らしい居室となっています。また、換気や掃除を毎日行い清潔保持にも努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆったりと安全に暮せるスペースの確保をしている。可能な限り自立した生活が送れるよう使い易い配置等工夫、配慮をしている。		